

長期戦略:テーマ 「ICTによる教育・学修支援」

提出日 2019年8月28日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	北村高等教育推進センター長 (高等教育推進センター)	実施計画の 担当部署	高等教育推進センター
-----------------------	-------------------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(10)-⑤ LMSの利用促進	(2019)年度	(2021)年度	必要なし	不要
内容				
<p>2009年度からの新中期計画において導入されたLUNA(LMS)は、2010年秋学期からの運用開始以降、着実に利用率を高めてきており、現在は大学の開講科目のおよそ半数になんらかのコンテンツが掲載され、専任教員の8割がシステムにアクセスをしているなど、本学の学習支援システムとして確立しつつある状況にある。これまでも、クリッカーや授業支援ボックス、ポートフォリオシステムとの連携を図り、普及に努めてきたが、継続した取り組みを行う。特に、LUNAにおいては、2010年の運用開始以来、過去のコンテンツを保存しており、利用する教員にとっては、ティーチングポートフォリオとしての役割も担っている状況にある。</p> <p>今後の課題としては、教員への働きかけはもちろんであるが、スマートフォンへの対応について現在のレスポンス対応のみでなくネイティブアプリ対応や、更なる機能拡張を含めた検討を進めるとともに、今後予定されている2023年度のポータルへの統合を見据えた準備を進める。</p> <p>また、別の実施計画として、情報化戦略本部が担当する「各種入試合格者等入学前学生への利用者ID付与」を行うことになれば、入学前教育のプラットフォームとしてのLMSの利用用途は広がる。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	LMSを利用する大学開講授業科目の比率	履修者数0の科目をのぞいた代表科目を分母とし、コンテンツが掲載されている科目数を分子とする。		
指標2	LMSを利用する専任教員の比率	4月1日の専任教員数を分母とし、システムにアクセスした専任教員数を分子とする。		
指標3	LMSを利用する学部生の比率	5月1日時点の在籍学部生数を分母とし、システムにアクセスした学部学生数を分子とする。		

目標1<指標1> LMSを利用する大学開講授業科目の比率

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	51%	52%	53%	57% (2024年度) 60% (2027年度)
実績				

目標2<指標2> LMSを利用する専任教員の比率

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	80%	82%	84%	86%
実績				

目標3<指標3> LMSを利用する学部生の比率

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	95%	95%	95%	95%
実績				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
LMSの利用促進	策定段階	スマートフォン対応導入 アプリ導入 既成コンテンツ導入検討	(既成コンテンツ導入) (サーバリプレイス)	ポータル統合に向けた 検討開始	ポータル統合準備	ポータルシステムへの 統合
	2020年3月 末段階	サーバリプレイス 既成コンテンツ導入検討	(既成コンテンツ導入) システム改修	ポータル統合(システム リプレイス)に向けた 検討開始 アプリ導入検討	ポータル統合(システ ムリプレイス)準備	ポータルシステムへの統 合(システムリプレイス) アプリ導入
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月 末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2020年3月 末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	
() 年度	
() 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	アプリ版は利用できる機能が一部に限定されるなど運用上の懸念があるため、2020 年度の導入は見送り、2023 年度のシステムリプレースに合わせて検討する。なお、既にレスポンス対応版を導入しているため、スマートフォンでの利用にも適した画面表示となっている。教員向けの研修やハンドブックの見直しなどにより、利用促進を図っていく。
2020 年度	
() 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	LMS の利用促進に伴うスマートフォン対応の必要性を認めます。ただし、概算費用は保留とします。ライセンス購入の具体的な内容について、将来構想推進 WG での承認を得た上で、予算外申請してください。
2019 年度	LMS の利用促進に伴うシステム改修費用を認めます。
() 年度	